



令和7年3月1日  
京都市立藤城小学校  
Tel 621-5580  
校長 高村 朋

## よりよい藤城教育のために ～令和6年度後期 藤城教育アンケート～

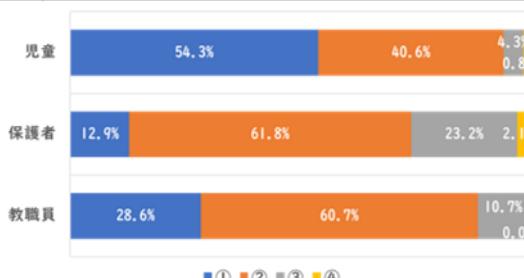
NO. 1

厳しい寒さも少しずつやわらぎ、やわらかな春の日差しがうれしい季節になりました。今年度も残り少なくなり、子ども達は卒業・進級に向けて、1年間のまとめを頑張っています。さて、12月には藤城教育アンケートにご協力いただきありがとうございました。アンケートの結果とともに1年間の教育活動について振り返り、分析・考察を行いました。

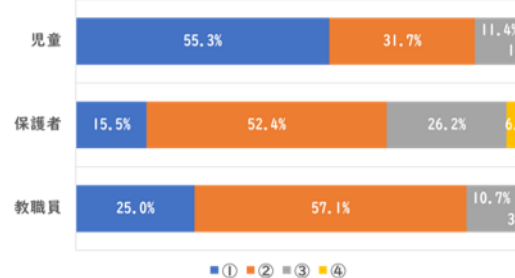
### 確かな学力



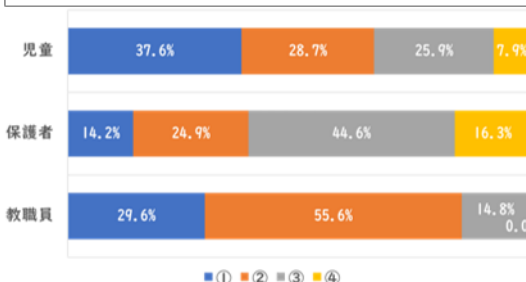
1. 児童：授業がわかり、ひらがなや漢字、計算などができる。  
保護者：わが家では、子どもに学習のつまづきがないか確認したり、つまづきが見られた時は、何か対策（教えてあげる・先生に相談するなど）している。  
教職員：子ども達に、ひらがなや漢字、計算などの基礎的な学力の定着を図り、つけた力を明確にした授業づくりに取り組んでいる。



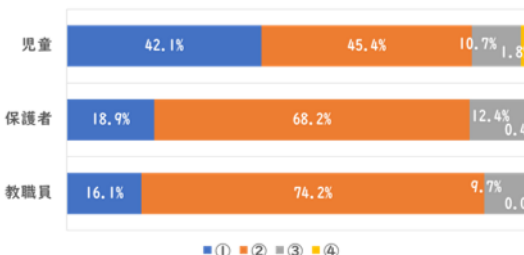
2. 児童：家で自分から宿題や勉強をしている。  
保護者：わが家では、子ども自身が進んで宿題や勉強ができるよう取り組んでいる。  
教職員：家庭学習の習慣を身につけるための工夫や内容の充実を図っている。



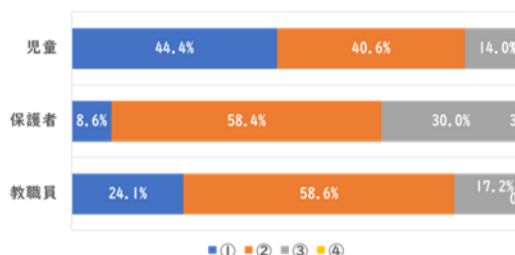
3. 児童：学校や家で、本を読んでいる。  
保護者：わが家では、子どもが本を読む環境づくりに取り組んでいる。  
教職員：読書活動の充実に向けて取り組んでいる。（読書タイム・学校図書館の利用・読書ノート・読書の取組など）



4. 児童：相手を見て、思ったことや考えたことを話したり、聞いたりすることができる。  
保護者：わが家では、子どもが理解できるような話し方をしたり、子どもの話を聞いたりする心がけている。  
教職員：相手を意識して話したり聞いたりできる力、学年に応じた書く力の指導に取り組んでいる。



5. 児童：タブレットなどで情報を集めるとき、正しい情報かどうか判断できる。  
保護者：わが家では、子どもが適切にインターネットを活用したり、正しい情報の判断ができてきたりするように、話をしたり、何か取り組んだりしている。  
教職員：子ども達がICTを活用する授業づくりを工夫したり、情報モラルの指導に取り組んだりしている。



### 確かな学力

#### ① 基礎的な学力に向けて

児童の「よくできている・大体できている」の回答が前期比で約4%上昇している。基礎学力の定着を感じる子ども達が増えていると考えられる。保護者は多忙で学習状況が把握しにくいことが考えられる。家庭訪問や個人懇談会を通じて、子ども達の学習の定着を伝え、家庭と学校との連携を図っていききたい。また、学校では、基礎学力の向上だけでなく、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりに取り組んでいきたい。

#### ② 家庭学習について

児童の「よくできている・大体できている」の回答が前期比で約4%上昇している。家庭学習の大切さや楽しさが少しずつ浸透してきていると考えられる。GIGA 端末を活用した宿題が、子ども達の家庭学習に対する意欲の持続につながっていることが一因であると考えている。「自学自習」が身につくことで、時間管理スキルや主体的に学ぶ姿勢が身につく、学習意欲が高まる。学校では、引き続き GIGA 端末を活用した宿題を取り入れ、学校と家庭が連携して「自学自習」ができる子どもを育成していききたい。

#### ③ 読書について

例年、児童・保護者共に低い数値であり、児童と保護者の間に差が見られる。本を読むことは、子どもたちの知識や視野を広げ、読解力や生きる力の向上にも結びつく。学校では、毎朝読書タイムや読書週間を設け、読書の楽しさを感じられる取組を行っていききたい。また今年度、保護者の「図書ボランティア」が復活し、学校図書館の環境整備やイベントを通じて、読書活動の充実に取り組んでいただいている。今後も連携を強化していききたい。

#### ④ 話す・聞く・書くことについて

児童・保護者・教職員共に高い評価を得ている。「話す」「聞く」ことは、自分の考えや感情を伝え、他者の意見や感情を理解する力を育む。学校では、ディスカッション等を通じて、意見交換力を養っていききたい。家庭では、会話を大切に、子どもが自由に話せる環境を作っていただきたい。

#### ⑤ ICT活用について

前期に引き続き、児童と保護者の間に若干の差が見られる。子ども達は自信をもってICTに取り組んでいる一方で、保護者は不安を持っていると考えられる。子どもたちは、タブレットを活用した学習に取り組んでいる。学校では、情報を正しく判断する力「情報活用能力」の獲得を目指し、ICT 機器の効果的な活用を進めている。家庭でもニュースや SNS の投稿を一緒に見ながら、情報の信憑性を確認する習慣をつけるよう取り組んでいただきたい。



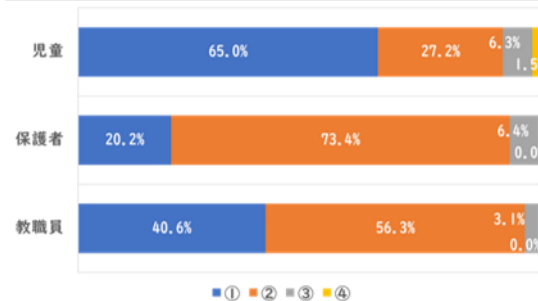
# よりよい藤城教育のために ～令和6年度後期 藤城教育アンケート～

NO. 2

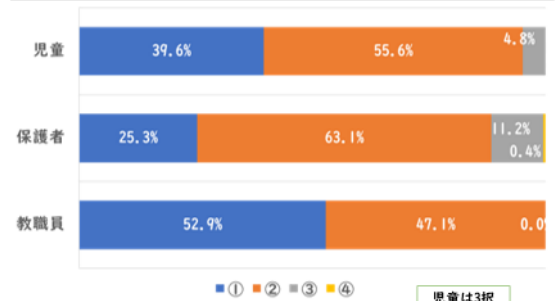
## 豊かな心



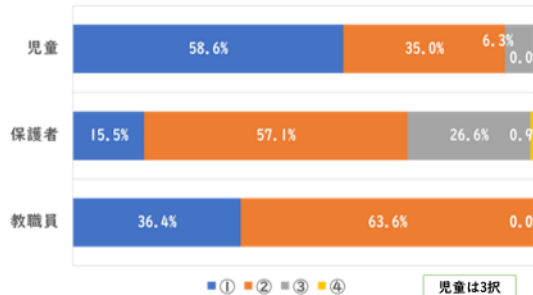
6. 児童：学校は楽しい。  
保護者：わが家では、子どもが楽しく学校に通えるよう声かけするなどしている。  
教職員：子どもたちが、楽しく学校に通えるような取組を行っている。



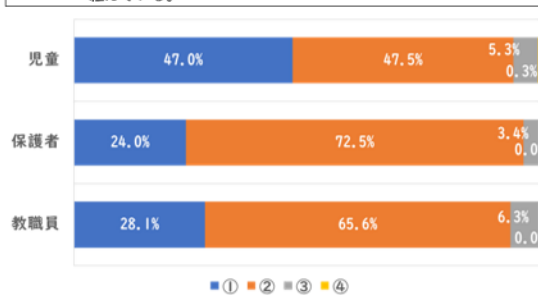
7. 児童：自分には良いところがあると思う。  
保護者：わが家では、子どもの良さを認め、ほめるよう心がけている。  
教職員：子どもの良いところを認め、ほめるよう心がけている。



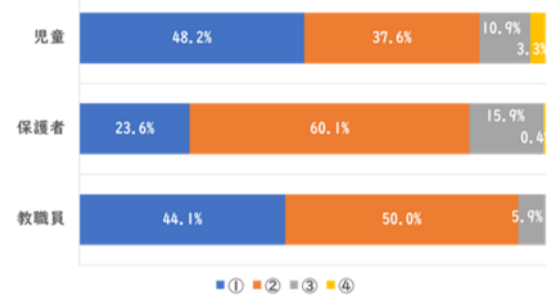
8. 児童：自分には、将来の夢や目標がある。  
保護者：わが家では、子ども達に夢や目標がもてるように話をしたり、行動に示したりするなどして働きかけている。  
教職員：子どもたちに、夢や目標を持てるよう話をしたり、行動に示したりするなどして働きかけている。



9. 児童：自分がされていやなことは人にしないなど学校のきまりを守っている。  
保護者：わが家では、子どもが学校のきまりや交通ルールを守ったり、社会のマナーを身に付けたりできるよう働きかけている。  
教職員：子どもたちが学校のきまりを守り、学習規律が身につくよう取り組んでいる。



10. 児童：自分から進んで挨拶をしている。  
保護者：わが家では、子どもから進んで挨拶をするよう働きかけている。  
教職員：自分から進んで挨拶をするよう働きかけている。



## 豊かな心

### ⑥ 学校生活について

前期に引き続き、児童・保護者・教職員共に高い評価を得ている。今後も全ての子どもたちが楽しく登校できるよう、学校では教職員が丁寧に子どもたちに接していきたい。家庭では、「一番楽しかったことは何？」など具体的な質問をして、学校での楽しい出来事や友達との交流について話していただきたい。子どもの気持ちに寄り添い、「それは楽しかったね!」や「大変だったね。」と共感し、安心感を与えてほしい。学校に対するポジティブなイメージを持たせ、学校に送り出していきたい。

### ⑦ 良いところについて

前期に引き続き高い評価を得ている。前期と比べて約4%の上昇が見られた。保護者や教職員が子ども達をほめることで、自己肯定感を高めようとしていることがうかがえる。子どもの良いところを認め、ほめることは、成長や発達において非常に重要である。褒められることで自信を持ち、自己肯定感が高まる。自己肯定感が高まると、さまざまな挑戦に対して前向きな姿勢を持つようになる。また、ほめられることで努力が報われると感じ、さらに頑張ろうという意欲が湧き、学習や活動に対するモチベーションが高まる。褒められることで安心感を得て、感情が安定する。自己肯定感を持つことは、今後の人格形成において大変有効である。今後も大人がたくさんほめて、子ども達の良さを伸ばしていきたい。

### ⑧ 夢について

児童と保護者に若干の差が見られた。保護者の見えないところで、子どもたちは夢や目標を育んでいるのかもしれない。夢や目標を持つことには、さまざまな良い点がある。夢や目標があることで、日々の学習や活動に対する意欲が高まる。目標を持つことで、新しいことに挑戦する姿勢が育まれたり、挑戦を通じて自己成長を実感することができる。また、未来に対する希望やビジョンが生まれ、ポジティブな未来観を持つことができる。藤城小学校では、なりたい自分を目指して成長できる学校を目指している。子ども達が夢を描けるよう今後も働きかけをしていきたい。家庭でも、子どもたちが目標に向かって努力している姿を認め、小さな達成でも大いに褒めていただきたい。

### ⑨ きまりについて

前期に引き続き、児童・保護者・教職員共に高い評価を得ている。きまりやルールを守ることで、自己管理能力や規律を身に付けることができる。また、ルールやマナーを守ることで、他者からの信頼を得ることができる。信頼関係は、人間関係において重要である。学校では、皆が気持ちよく生活できるよう決まりやマナーがある。今後も人のことを考えられるような人になるよう働きかけていきたい。

### ⑩ あいさつについて

前期と比べて、児童の「よくできている・だいたいできている」が約4%上昇したものの、まだ改善の余地があると考えられる項目である。あいさつは人とのコミュニケーションの基本であり、他者との良好な関係を築く第一歩である。あいさつを通じて、相手に対する敬意や親しみを示すことができる。進んであいさつをすることで、自信を持ち、あいさつが返ってくることで自己肯定感が高まる。何よりも、あいさつをすることで、周囲からの評価が良くなり、ポジティブな自己イメージが形成される。今後も皆で取り組んでいきたい課題である。あいさつは子ども達とのコミュニケーションの第一歩だと考えている。今後も大切にしていきたい項目である。





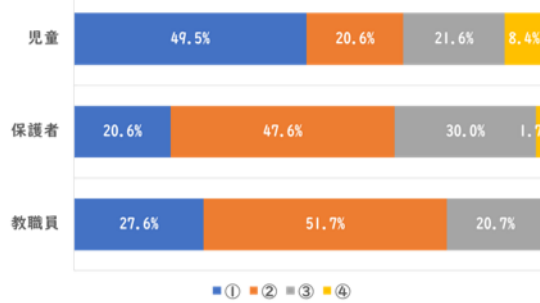
# よりよい藤城教育のために ～令和6年度後期 藤城教育アンケート～

N0. 3

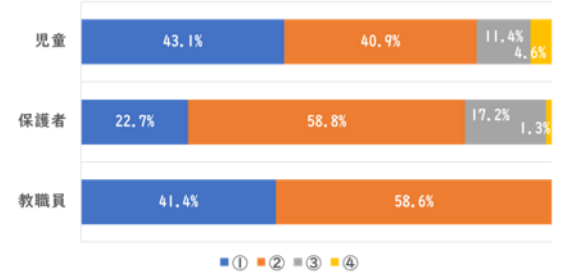
## 健やかな身体・その他



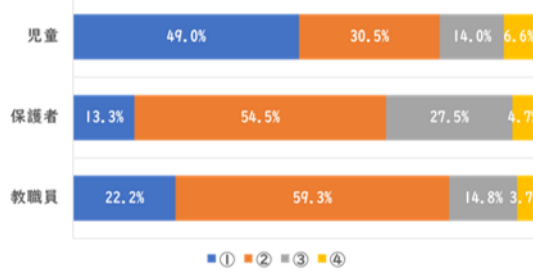
11. 児童：休み時間は外で元気に遊んでいる。  
保護者：わが家では、子どもに体を動かす運動や遊びをすすめている。  
教職員：休み時間は、子どもに外で遊ぶように声かけを行うなどして働きかけている。



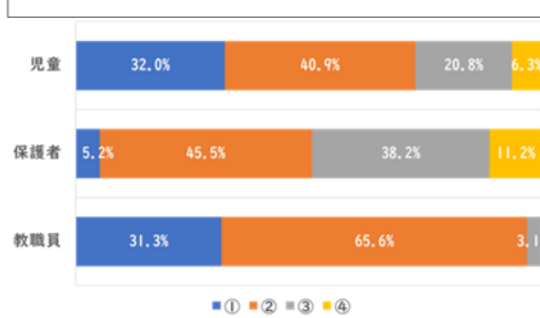
12. 児童：早寝・早起き・朝ご飯など規則正しい生活を意識して、体調を整えている。  
保護者：わが家では、早寝・早起き・朝ご飯等規則正しい生活を意識し、体調を整えられるよう取り組んでいる。  
教職員：健康や安全に配慮した取組や適切な声かけをしている。（早寝・早起き・朝ご飯をはじめとした保健指導など）



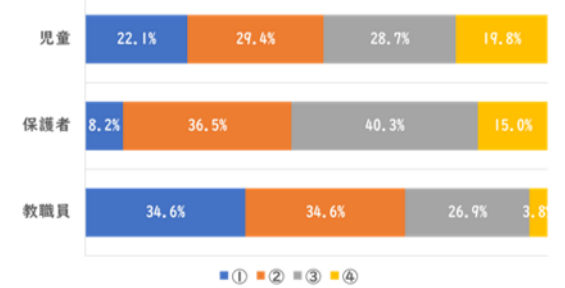
13. 児童：テレビ・ゲーム・YouTube・インターネットなど、やりすぎないように、家庭で決められた時間を守っている。  
保護者：わが家では、テレビ・ゲーム・YouTube・インターネットなどについて、家庭での約束を子どもとの間で決めている。  
教職員：テレビ・ゲーム・YouTubeなど適切に時間を守らせるよう声かけをするなどの取組を行っている。



14. 児童：学校教育目標が言える。  
保護者：学校教育目標を知っている。  
教職員：学校教育目標に向けて子どもの育成に取り組んでいる。



15. 児童：GIGA端末などで学校ホームページを見ている。  
保護者：藤城小学校のホームページやチーム藤城オンラインを閲覧している。  
教職員：学級・学校だより、学校ホームページなどで、学校の様子を保護者に伝えている。



## 健やかな体・その他

### ⑪ 外遊びについて

前期に引き続き評価が低い項目である。保護者の「よくできている・大体できている」は前期と比べて約 5% 下降している。これは、各家庭で遊びの内容がゲームやスマホに偏っていたり、習い事や塾の影響があるのではないかと考えられる。コロナ禍以降、子ども達の体力や運動能力の低下が指摘されている。子ども達の健やかな身体の育成を目指すためにも、たくさん外で遊んだり、体を動かしたりするよう働きかけていきたい。

### ⑫ 早寝・早起き・朝ご飯について

前期と比べて児童・保護者は大きな変化は見られないが、教職員は「よくできている・大体できている」が約 7% 上昇している。児童はテレビやゲーム、習い事の影響で多少なりともできていないと感じているようである。毎日を健康に楽しく過ごすために、しっかりと睡眠時間を確保し、朝ご飯を食べることが大切である。今後も「保健だより」などを通じて子ども達の健康について発信していきたい。

### ⑬ テレビ・ゲーム・YouTube などについて

規則正しい生活を送るために重要なテレビ・ゲーム・YouTube に関する質問であるが、家庭で約束を決めても守ることが難しい場合がある。適切な利用時間を決めることで、子どもがバランスの取れた生活を送ることができる。過度なスクリーンタイムは、睡眠不足や運動不足、視力に影響を与える可能性がある。インターネットの利用についてルールを決めることで、有害なコンテンツや危険なサイトへのアクセスを防ぐことができる。利用時間や内容について具体的なルールを設定し、家族全員で共有し、定期的に確認し、必要に応じて見直すことが大切である。

### ⑭ 学校教育目標について

児童の「よくできている・大体できている」が前期比で約 7% 上昇したものの、児童・保護者共に低い評価である。学校 HP や学校だよりに掲載しているが、あまり意識されていないようである。本校が目指している学校教育目標や子ども像、日々の学校の取組を、子どもや保護者にしっかりと周知していけるようさらに取り組んでいきたい。

### ⑮ ホームページについて

前期に引き続き、児童・保護者・教職員共に低い評価が見られた。学校ホームページでは、子ども達の日々の学校生活の様子を伝えているが、周知不足が考えられる。教職員は、このアンケートを機に、子どもの様子を伝える方法について振り返るきっかけとしたい。チーム藤城オンラインでは、藤城地区の様子なども伝えているが、このホームページが学校と家庭、地域を結ぶ懸け橋となるよう、今後も学校の様子を伝えていきたい。





# よりよい藤城教育のために ～令和6年度後期 藤城教育アンケート～

N0. 4

地域	児童（1年） 「4月から今までがんばってきたことは何ですか」	児童（2年） 「4月から今までがんばってきたことは何ですか」
<p>学校は、地域の声を聞き、学校運営に生かすなど開かれた教育活動を行っている。</p> <p>学校は、藤城小学校のホームページ等で学校の様子を分かりやすく発信している。</p> <p>学校は、学校教育目標「思いやりの心をもって生き生きと活動する子」を目標として取り組んでいる。</p> <p>学校は、地域の活動や行事などに積極的に協力している。</p> <p>子ども達や教職員は、すすんで挨拶をしている。</p> <p>子どもたちは、地域でのルールを守ったり、望ましい言葉遣いで話したりするなどのマナーを身に付けている。</p> <p>学校は、子どもたちが楽しく通えるような場所になっている。</p>	<p>・音読 ・ひき算 ・宿題 ・漢字 ・計算カード ・字をていねいに書く ・あさがおを育てたこと ・図工 ・読書</p> <p>・跳び箱 ・ふじりんピック ・ころがしドッジ ・みんなと一緒にあそぶこと ・そうじ ・給食を残さず食べること ・あいさつ ・元気に登校する ・助け合い</p>	<p>・授業 ・読書 ・字をていねいに書く ・図画工作 ・計算問題 ・漢字 ・教えあい ・先生の話聞く</p> <p>・元気にあそぶ ・とび箱 ・姿勢をよくする ・思いやり ・友だちと仲良くする ・トイレのスリッパをそろえた ・難しいことにチャレンジする ・苦手なこともがんばった ・毎日楽しく</p>
<p>児童（3年） 「4月から今までがんばってきたことは何ですか」</p> <p>・漢字 ・タイピング ・掛け算のひっ算 ・楽しく授業を受ける ・プログラミング ・授業中の発表 ・宿題プリント ・ミニティーチャー ・読書 ・学習発表会・藤りんピック</p> <p>・約束を守る ・あいさつ ・人を助ける ・ふわふわ言葉 ・給食を残さない ・クラスで協力する ・元気に登校 ・時間を守る ・身の回りの整理整頓 ・掃除</p>	<p>児童（4年） 「4月から今までがんばってきたことは何ですか」</p> <p>・読書 ・授業をまじめにうける ・学習発表会・藤りんピック ・宿題 ・家で復習をする ・字をきれいに書く ・手をあげて発表する ・タイピング ・間違えてもあきらめない ・自分の気持ちを正直に言えるようになった</p> <p>・困っている人を助ける ・あいさつ ・相手の顔を見て話を聞く ・友だちの心を大切にする ・友達と仲良く遊ぶ ・時間を守る ・ふわふわ言葉を使う ・言葉遣い ・学校や家のきまりを守る ・人が喜ぶことをする</p>	<p>児童（5年） 「4月から今までがんばってきたことは何ですか」</p> <p>・宿題 ・自主学習 ・復習 ・プログラミング ・英語 ・手をあげて発表する ・読書 ・計算 ・課題を期限までにやる ・知りたいことを調べる</p> <p>・早寝早起き ・整理整頓 ・あいさつ ・給食をよく食べる ・学校に休まず登校する ・けじめをつける ・忘れ物をへらす ・自分がされて嫌なことは友達にはしない ・思いやりの気持ち ・低学年にやさしくする、</p>
<p>児童（6年） 「4月から今までがんばってきたことは何ですか」</p> <p>・予習復習 ・自主勉強 ・授業 ・書道のコンクール ・字をきれいに書く ・学校や塾のテスト勉強 ・受験勉強 ・何度も発表する ・感想文 ・人の話を聞く ・いろいろな行事でみんな協力して絆を深められた</p> <p>・家や学校のルールを守る ・元気に明るく過ごす ・家のお手伝い ・早寝早起き ・みんな協力する ・忘れ物をしない ・いろいろなことにチャレンジ ・気遣い ・人に優しくする ・人権目標を守る ・5分前行動</p>	<p>保護者「4月から今までの子どもの成長を感じること」</p> <p>・宿題を進んで自分でできるようになった ・漢字を丁寧に書けるようになった ・本が読めるようになった ・入学してからきちんと座って授業を受け一生懸命取り組んでいた ・文章を書く力が少し上がってきた ・話す言葉や表現が増えたこと ・苦手な事や科目を克服するために頑張る気持ち ・小さな子どもの面倒をみれるようになった</p> <p>・友達ができたこと ・お手伝いをするようになった ・規則正しい生活や学習習慣が身につくようになった ・人との関わり方や距離感など対人関係が上手にできるようになった ・自分なりに目標を持って頑張っていると感じられる ・身の回りのことを自分でできるようになってきた ・社会との関わりを意識し地域のことやニュースなどにも興味を持つようになった</p>	<p>保護者「4月から今までの子どもの成長を感じること」</p> <p>・朝の行き渋りがほとんどなくなり登校に間に合うようになった ・運動会や発表会での団結力 ・自分がされたら嫌なことはしない ・友達への気遣い ・約束事を守るようになった ・挨拶 ・体力がついてきた ・大人への尊敬や信頼する気持ちを持てるようになった ・目標に向けて頑張っている ・部活動を最後まで続けられた</p> <p>・最近イライラして、当たってくる人が多い。反抗期に入ってきたのかと成長を感じている ・怒りや悲しさ、悔しい感情を少しコントロールできるようになった ・意思決定ができるようになってきた ・親に頼らずに自分で頑張るようになったこと ・学校での出来事を話してくれるようになった ・自分の思いと違うことがあったとしても、気持ちの切り替えを自分でできることが増えたこと</p>
<p>教職員「4月から今までの子どもの成長を感じること」</p> <p>・学校のみんなのためにがんばろうとする態度がだんだん芽生えてきた ・学習規律が整ってきた ・やるべきことを自分たちで声をかけ合えるようになった ・情報を活用して比較、考察することが少しずつ出来るようになってきた ・自己調整して学びを自分で進められる姿がある ・友だちを助けたり、選択して発展的な学びを進めたり、いい姿で学んでいる ・気持ちを伝えることに前向きになった。</p> <p>・どの学年の児童も、学年に応じたたくましさが出てきた。運動会や学習発表会を通して、大人数で力を合わせることをよきを実感し、みんなで頑張ろうという意識が育ってきた ・1年生は、小学校のルールをよく理解し、授業へ積極的に参加する様子が見られる。 ・挙手して発表する児童が増えた。 ・諦めずに最後まで取り組む姿勢が見られるようになった学び合いの助け合いができていく姿に成長を感じます。 ・おうちのひとと離れられなかった子どもが、元気に登校できていること</p>	<p>地域「藤城地域の子供達の成長を感じること」</p> <p>・学校での行事だけでなく児童が参加できる地域での行事も豊富なので、子供たちの地域への帰属意識が高まっている。 ・学校が取り組んでいる、挨拶や掃除、スリッパを並べるなど、学校生活での約束事をきちんと守れている子ども達が増えてきている ・朝のみまもり時、積極的に挨拶をする子が多くなった。中高生になった子ども達も、声をかければみんなちゃんと挨拶を返してくれる。成長した姿を見ると感慨深い。</p> <p>・以前、藤森中学校のチャレンジ体験発表会を見に行った時、母校藤城小学校に行った子が、「自分が小学生の時には気づかなかったけど、体験に行ってみて先生ってこんなに大変だったんだとわかった。」と言っていた。藤城小を巣立った子達の成長を見るたび、小学校での土台作りをきちんとしてくださっていたからこそなのだと感じる。 ・地域行事に積極的に参加や活躍したりする姿を見ると地域の一員として大きな成長を感じ頼もしい。</p>	<p>※グラフの数値はいずれも</p> <p>①できている ②大体できている ③あまりできていない ④できていない</p> <p>※3択の場合は、</p> <p>①できている ②大体できている ③できていない</p>

## 地域・自由記述

地域の方からは、家庭・学校・地域の三位一体の教育活動についてご意見をいただきました。

自由記述には、子ども達の成長を感じる回答をたくさんいただき、ありがとうございました。一部ですが、紹介させていただきます。

今後も藤城教育推進のため、ご協力をよろしくお願いいたします。



今回のアンケート結果を踏まえ、今後の藤城小学校の教育力を高めるため、成果・課題を認識し、改善に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

今後も引き続き、保護者・地域の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。